

子供の未来応援基金 2020年度活動事業報告書

子供の未来応援国民運動推進事務局

2021年8月



ご挨拶	1
子供の未来応援基金について	2
2020 年度の活動	4
2020 年度支援：第 4 回未来応援ネットワーク事業実績報告	5
第 4 回未来応援ネットワーク事業活動レポート	
①様々な学びの支援	
高校受験のチャレンジに伴走	6
人との出会いの中で成長していく	7
②衣食住などの生活の支援	
ちょっとしんどいを、ちょっとだけ楽に	8
食品と共に応援する気持ちを届ける	9
③居場所の提供・相談支援	
コロナ禍で深めた親子とのつながり	10
子供の日々の生活と自立を支える	11
④児童又はその保護者の就労支援	
安定した職業生活に向けてサポート	12
⑤児童養護施設等の退所者等や里親又は特別養子縁組の斡旋	
施設を退所し一人暮らしを始めた子供たちに寄り添って	13
⑥貧困の連鎖の解消	
専門家を交えた定期的な子供たちのケア	14
2020年度支援:新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業実績報告	15
新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業活動レポート	
安心して学習できる環境づくり	16
子供たちの食と居場所を守る	17
コロナ禍の生活を支える	18
子供たちと家庭の変化	19
支援に携わる方、ボランティアの方の声	21
2020 年度活動の成果	22
基金の財務状況（2020 年度）	23
ご支援いただいた企業・団体	24
第 4 回未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧	25
新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業支援団体一覧	28

子供の未来応援基金にご寄付をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

子供の未来応援基金は、2013年6月の「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の成立、2014年8月の「子供の貧困対策に関する大綱」の決定を受け、子供の貧困対策を官公民の連携・協働プロジェクトとして推進する観点から2015年10月に創設されました。基金の創設以来、企業や個人から広く寄付を募り、貧困による困難を抱えた子供たちを支える草の根の団体への支援を継続しています。

2020年度に入り、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、子供たちを取り巻く環境は一層厳しいものとなりました。感染症対策を講じるために対面型の支援が行いづらくなるなど従来の支援方法を見直す必要が生じ、また、子ども食堂での共食も困難な場面が生じました。子供の未来応援国民運動推進事務局では、こうした状況を踏まえ、2020年7月に「新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業」により、感染症対策を講じた上で子供たちへの支援を継続するための新たな支援方法を採用する20の団体に対し、緊急支援を行いました。更に、2021年1月には、同年4月から実施する活動に対する支援として全国の96団体に対して6回目の支援を決定したところであり、支援を決定した団体においては、オンラインによる学習支援や相談支援、食事の宅配等、感染症対策を講じながら子供たちへの支援を継続するための活動方法が取り入れられています。

そして、この未来応援ネットワーク事業による支援を通じ、全国の団体の方から、「支援を得ることで行政や地域の信頼を得ることができ、団体の活動が大きく前進しました」、「子供たちの権利を守っていく上でこの事業は必要不可欠です」等の声が届いています。こうした声に接する中で、未来応援ネットワーク事業による支援の輪が着実に広がっていることを実感するとともに、子供たちを支援する環境を社会全体で支援していくための一助とすることの必要性を改めて認識しているところです。

寄付者の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、お預かりした寄付金の活用成果について、本事業報告書をもってご報告いたします。

2021年8月 子供の未来応援国民運動推進事務局
[内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構]

子供の未来応援基金について

沿革

2015年10月、子供の未来応援基金は、子供の貧困対策に係る官公民の連携・協働プロジェクトとして創設されました。

子供の貧困の状態を放置することにより、子供たちの将来が閉ざされてしまうだけでなく、社会的損失にもつながることから、困難を抱えた子供たちを支える民間の活動を支援するため、寄付金を原資とした子供の未来応援基金を創設し、2016年より「未来応援ネットワーク事業」として支援金の交付を継続しています。

支援金の使途については、①様々な学びを支援する事業、②衣食住などの生活の支援を行う事業、③居場所の提供・相談支援を行う事業、④児童又はその保護者の就労を支援する事業、⑤児童養護施設等の退所者等や里親又は特別養子縁組の斡旋を実施又は支援する事業、⑥貧困の連鎖の解消に資する事業とし、「子供の未来応援基金事業審査委員会」において申請内容を審査の上、支援先を決定しています。

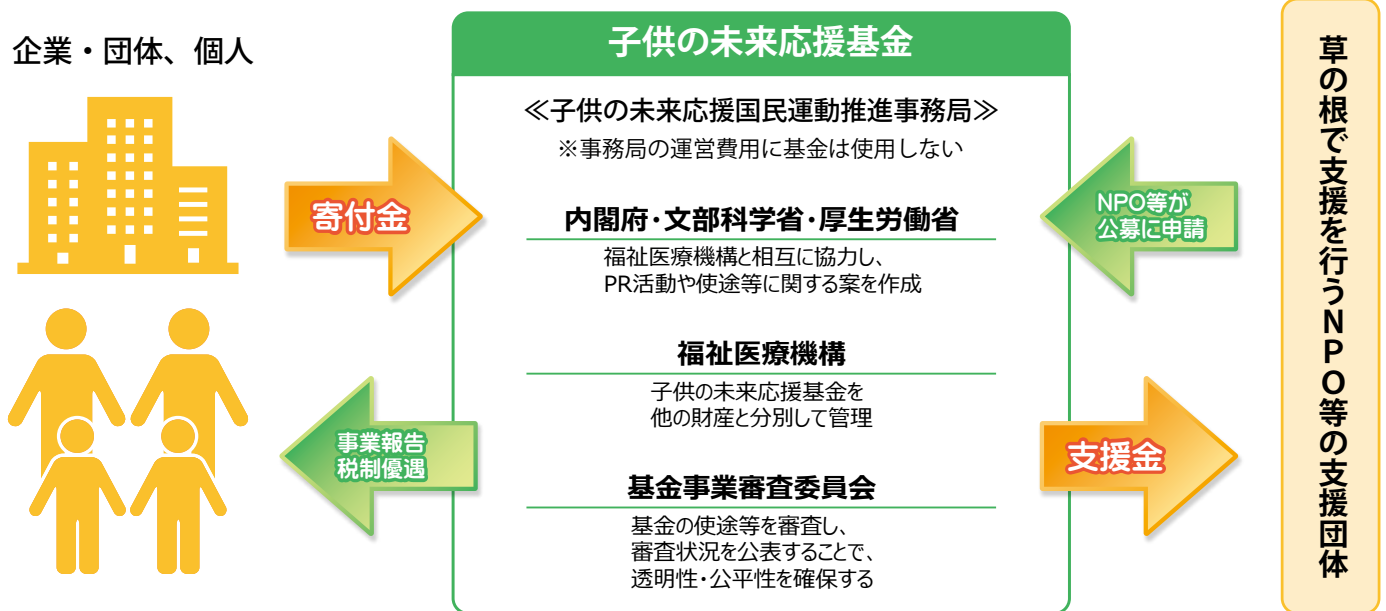
2015年4月	子供の未来応援国民運動 発起人集会 関係閣僚や経済界、教育・福祉関係者など様々な分野から発起人が集い、民間資金による基金創設を検討することなどを決定しました。
2015年10月	子供の未来応援基金を創設 子供の未来応援基金の寄付を募る活動を始めました。
2016年7月～	未来応援ネットワーク事業の公募を開始 年1回、全国から公募し、支援団体が活動しています。

支援実績

事業回次	活動期間	支援実績（支援決定額）	
第1回未来応援ネットワーク事業	2016年10月～ 2017年9月	86団体	3億1,500万円
第2回未来応援ネットワーク事業	2018年4月～ 2019年3月	79団体	2億6,600万円
第3回未来応援ネットワーク事業	2019年4月～ 2020年3月	71団体	2億800万円
第4回未来応援ネットワーク事業	2020年4月～ 2021年3月	97団体	1億2,900万円 (+ 357万9千円を追加交付)
新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援	2020年7月～ 2021年3月	20団体	5,300万円
第5回未来応援ネットワーク事業	2021年4月～ 2022年3月	96団体	1億4,600万円

■子供の未来応援基金の管理・運用体制

子供の未来応援基金は、内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構により構成する「子供の未来応援国民運動推進事務局」が管理・運用しています。



■子供の未来応援基金事業審査委員会

子供の未来応援基金により行う支援事業については、支援先となる団体を公募し、その申請内容について「子供の未来応援基金事業審査委員会」において審査の上、決定しています。

<委員>

- 菊 池 まゆみ 藤里町社会福祉協議会会長
- 草 間 吉 夫 宮城誠真短期大学特任教授【委員長】
- 小 山 遊 子 株式会社イトーヨーカ堂経営企画室 CSR・SDGs 推進部総括マネージャー
- 笹 山 衣 理 滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局子ども未来戦略室室長
- 福 嶋 誠 也 横浜市こども青少年局総務部長
- 宮 本 みち子 放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授
- 室 田 信 一 東京都立大学人文社会学部人間社会学科准教授
- 我 妻 充 史 キヤノンマーケティングジャパン株式会社企画本部サステナビリティ推進部部長

(五十音順、敬称略、役職は令和3年5月6日現在)

2020年度の活動

2020年4月

- ・「第4回未来応援ネットワーク事業」支援団体の活動が始動。
- ・2019年の天皇陛下御即位に際し、天皇陛下から金5,000万円が^{かし}下賜される。

2020年5月

- ・子供の未来応援基金事業審査委員会において「新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業」の実施について審議。(29日)

2020年6月

- ・「新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業」による支援団体を公募。
(募集期間：6月2日～6月15日)

2020年7月

- ・子供の未来応援基金事業審査委員会において「新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業」に係る支援対象を審査。(9日)
- ・「新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業」による支援を公表。(10日)

2020年8月

- ・子供の未来応援基金事業審査委員会において「第5回未来応援ネットワーク事業」の実施について審議。(21日)
- ・「第5回未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公募。(募集期間：8月24日～10月2日)

2020年12月

- ・子供の未来応援基金事業審査委員会において「第5回未来応援ネットワーク事業」に係る支援対象を審査。(21日)

2021年1月

- ・「第5回未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公表。(29日)

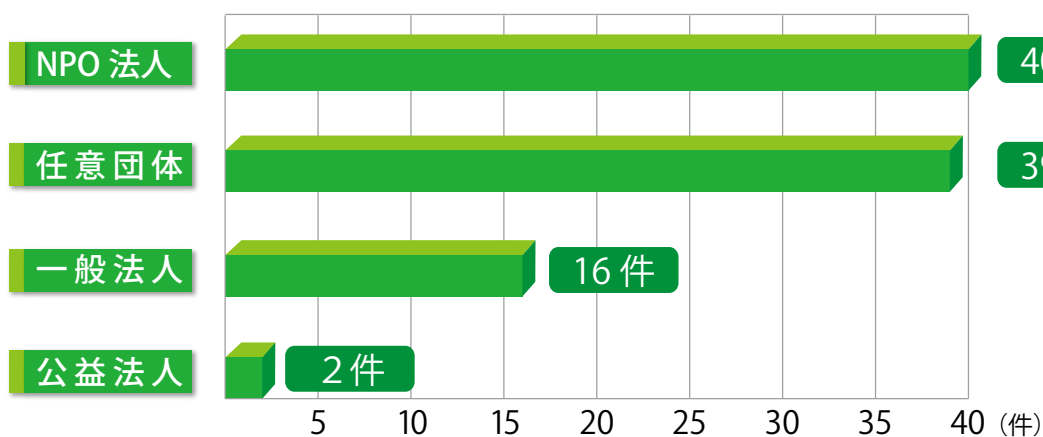
2020年度支援：第4回未来応援ネットワーク事業 実績報告

2020年度は、第4回未来応援ネットワーク事業により、全国の97団体に対し、支援を行いました。

■ 支援件数 計 97 件

様々な学びを支援する事業	25 件
居場所の提供・相談支援を行う事業	38 件
衣食住など生活の支援を行う事業	20 件
児童又はその保護者の就労を支援する事業	1 件
児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業	8 件
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業	5 件

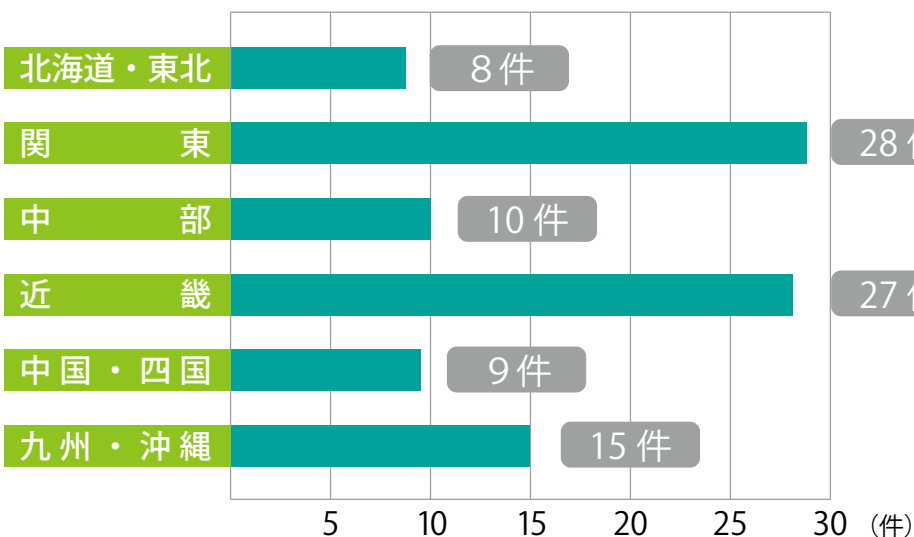
■ 支援先団体の法人区分別内訳



■ 支援した
子ども、
親子の人数

計
31,290名

■ 支援先団体の所在地域別内訳



①様々な学びの支援



高校受験のチャレンジに伴走

「学習支援ソライロ」は、東京都荒川区町屋の一角で、家庭の経済状況から一般的な学習塾に通うことが困難な中学生に対する無料学習教室を運営しています。主に、ひとり親家庭や兄弟の多い家庭、就学援助を受給している家庭の中学3年生を対象に都立高校の入試対策を行っています。

子供たちの学習に寄り添うのは、子供たちにとって相談しやすく良きロールモデルとなる大学生や社会人ボランティア。

子供たちにとって初めての大きな挑戦となる高校受験のタイミングで進路支援を行うことで、高校進学を支える学力を身に付けるとともに、子供たちの自己決定力を高め、成功体験と自信を得ることで、貧困の連鎖を抜け出すために重要な子供たちの「自立する力」を育成しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で中学校が休校し、関係機関との調整に時間を要したため、子供たちへの受験支援は8月からのスタートとなりましたが、学習時間

を確保するため1回当たりの開講時間を延ばしたり、感染症の流行が厳しくなってもオンラインで学習支援を継続するなど工夫を重ね、2021年春には、無事、ソライロで受験支援を行った13名の生徒全員が志望校に合格。子供たちを志望校へ送り出すことができました。



人との出会いの中で成長していく

「高槻つばめ学習会」では、経済的な事情で一般的な学習塾に通塾することが困難な12名の中学生と3名の高校生に対して学習支援と相談支援を行いました。高槻市内の公共施設で対面での学習支援を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催施設が休館となった期間には、講師全員が力を合わせて、できることを最大限行い、オンラインによる授業やデジタルでの添削を導入するなどして、子供たちの学びの継続に取り組みました。

中には家庭にICT環境のない子供もおり、そうした場合にはタブレット端末を貸し出し、コロナ禍での学習の継続をバックアップ。また、外国ルーツの生徒の進学を後押しするために英検対策も行いました。

2021年春には、無事、中学3年生の生徒全員が志望校に合格。外国ルーツの生徒の進学に関して学識経験者の協力を得る中で講師の知見や認識も大きく広がりました。

また、寄付や協力を申し出てくれる方が増えただけでなく、大阪府内の高校の放送部で「高槻つばめ学習会」の活動がラジオドラマ化されるなど、地域の理解と関心

の高まりを感じることもできる出来事もありました。

「高槻つばめ学習会」の名前には、ボランティアで教えてもらった生徒たちが「自分もいつか人の役に立ちたい」という思いを持つ人材に育ち、巣に帰ってくるつばめのように、大人になって戻ってくれるようにという願いが込められています。

高槻つばめ学習会では、自分が通っている高校を受験する後輩のために話をしに来てくれる卒業生や、面接を控えた後輩に激励のメッセージをくれる卒業生がいます。学習会では、こうした「つばめの輪」を大切にしながら子供たちの将来に向けた歩みを支えています。

②衣食住などの生活の支援



ちょっとしんどいを、ちょっとだけ楽に

「みんなの居場所『こどもの隣』プロジェクト「なばりこども食堂」は、三重県名張市内の観光案内・コミュニティ施設で子ども食堂を開催しています。こども食堂を開始したのは、2016年6月のこと。市が行うひとり親家庭のこどもの学習支援事業に携わる中で、市内でも、スナック菓子だけで食事を済ませる子やいつも一人でご飯を食べている子、食事をまともにとれていない子が多くいると知ったことがきっかけでした。

「なばりこども食堂」では、こどもの料金は無料、大人は基本的に300円から協力金で運営しています。幼児から高校生まで幅広い年齢層のこども達がやって来ます。ここでは、ご飯をみんなで食べるほか、物づくりのワークショップをしたりすることもあり、そのときのこども達の表情は、とても楽しそうに生き生きしています。食事のおかわりを何回も希望してくれる子もいます。

ここに通うこどもの中には、食事作りに困っている世帯の子や、少し疲れてしまっている保護者さんと一緒に来ている子もあり、保護者の方からは「食の細い子がしっかりと食べてくれた」、「気持ちに余裕が持てた」、「孤食で育ったのでこのような場所がほしかった」といった声

を聞くところです。

こども食堂を立ち上げてから6年経ちますが、当時、県内には殆どこども食堂がなかったため、大阪でこども食堂を運営している団体に話を聞きに行ったり、東京などのこども食堂の活動報告を参考にしたりしながら、市の担当者や社会福祉協議会、地域のまちづくり協議会の方々にこども食堂とは何なのかについて理解と協力を得るため、対話を重ねました。

こども達や保護者の方の「しんどさ」をこども食堂で解決することは難しいかもしれませんが、こども食堂に来ることで「しんどさ」がちょっとだけ楽になる。こども食堂が、心を許して悩みを相談できる地域の居場所になれることを目指して活動を続けています。



食品と共に応援する気持ちを届ける

「フードバンクしまね あったか元気便」は、島根県松江市内の小中学校と連携し、就学援助受給世帯を対象にフードバンク活動に取り組んでいます。

2020年5月、6月には「コロナに負けるな！緊急食料応援」を実施し、延べ173世帯602名に計1.2トンの食料品、マスク、困ったときの支援サービス案内や「励ましのお便り」を送りました。7月、8月の夏休み期間にも、延べ268世帯922名に計3.2トンの食料支援を行いました。地域団体や企業など25団体からお米1.5トンや食品0.5トンの提供を頂き、発送作業には200名を超えるボランティアが参加するなど、応援の輪が広がっています。

2020年度を通じた活動の結果、延べ760世帯、2,626名に食品の配布を行うことができました。2021年3月の春休み便による食品配布からは、支援する学校区を広げることができ、現在では4つの小学校区と2つの中学校区の就学援助受給世帯に食品を届けるように

なっています。

「フードバンクしまねあったか元気便」が食品を届ける際には、フードバンク活動を支えてくださっている食品の寄贈者のことや寄付金をくださる方がおられること、食品を受け取られた方からのメッセージをお便りとしてまとめ、食品と一緒に配送する段ボール箱に入れています。配送先には一人で仕事と子育てを行っているひとり親の方も多く、「夜遅くまで仕事で、特に週末は22時くらいまで、一人でお留守番をさせる日がほとんど」、「どんな理由があってもシングルマザーは社会で厳しい目で見られることが多い」という声も聞かれるところです。支援を受けた親子からは、食品が届くことで、一人で頑張っているのではない、支えてくれる人がいるのだと感じたというメッセージが多数寄せられました。

③居場所の提供・相談支援



コロナ禍で深めた親子とのつながり

「イノベーション7374」は、新潟県内で貧困・孤食・児童虐待などのハイリスク家庭の子供たちが安心して過ごす場所「子どもの居場所 HOT ここあ」を運営しています。貧困、孤食、マルトリートメント（子供の健全な生育を妨げる不適切な養育）や児童虐待、ヤングケアラーなど、子供たちを取り巻く過酷な現状については決して遠い国の話ではありません。こうした問題はなかなか表面化してきませんが、日本においても、様々な問題を抱えた世帯の子供たちが地域に埋もれて暮らしているのが現状です。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、従来のように人が集まった居場所の開催が難しい時期が生じました。「子どもの居場所HOTここあ」では、居場所活動の再開の目途が立ちにくい中、今まで築き上げてきた「つながり」を絶やさないための工夫を考え、お弁当などの食事を子供たちの家庭に届ける取組を始めました。

学校休校中には、子供たちがきちんと食事を摂れるよう家庭への訪問回数を増やして活動。訪問回数が増えたことで、家庭との間で顔の見える関係性が構築でき、以

前よりも各家庭の生活上の悩みや子育ての悩みなどを共有することができるようになりました。また、家庭との交流の中で、不登校問題や休校による学習の遅れに関する問題を把握。コロナ休校からの流れで不登校になってしまった子のために何かできることはないかという思いから、新たに大学生によるオンラインでの学習支援も始められました。ボランティアで講師を引き受けてくれた大学生は、リモートとは思えないくらいに丁寧に教えてくれました。

2020年度はコロナ禍のさなかで、従来どおりの居場所活動ができなくなりましたが、できることをやろうと試行錯誤で新しい取組を始めました。そのおかげで、地域のレストランからお弁当の寄付を頂いたり、JA共済連新潟と市内の子ども食堂との連携プロジェクトに参加したことで、JA直売所で販売されている新鮮な食材を無償で提供いただけたりと、地域の協力を得ることもつながりました。同時に、日頃見えにくくなっている厳しい環境の子供たちの存在を地域の方や企業に知っていただくことにもつながりました。



子供の日々の生活と自立を支える

「親子関係支援センターやまりす」では、親の就労や病気等により家庭での養育に手助けが必要である世帯の小学生から高校生までの子供たちを週2回、送迎付きで居場所に迎え入れています。ここでは、夕食を共にし、学習支援を行うだけでなく、暮らしに必要な知識を身に付けたり、家でできない入浴を補うため「やまりすのいえ」の居場所でシャワーを浴びるなど、子供の生活に必要な生活上の様々なことを提供しています。

家庭での養育に手助けが必要である世帯の保護者は、親族から孤立し子育てに悩んでいる場合も多く、養育の疲れなどからネグレクト傾向になったり、加えて心理的な虐待や身体的虐待が起きることも少なくないため、その予防や改善を目的に、子育てに関する無料相談を土日祝日に行く「親支援事業」も並行して行っています。

2020年は新型コロナウイルス感染症への感染防止対策で3密を回避するため、定期支援の子供の数を利用希望に見合った人数にすることはできませんでしたが、それでもコロナ禍で受け入れられる最大限の人数として、子供たち8名とその保護者に対する支援を開始しました。

子供たちは、定期的に通いスタッフと顔を合わせて話をし、シャワーを浴びて、夕食を共にする中で、「やまりすのいえに来るのを楽しみにしている」、「学校での不

安や家での不安を聞いてほしい」、「大学生のお兄さん、お姉さんに勉強を見てもらえるのが嬉しい」とみんな喜んで通ってくれました。やまりすのいえが、子供たちの安心できる居場所になったようです。

また、親支援事業を重ねる中で、親子喧嘩を発端として即座に介入が必要となったケースなどには夜間の緊急電話相談や家庭訪問なども行いました。学校や市役所など関係機関との連携を行って支援したケースもあります。

家庭での養育に手助けが必要である環境で、大きな不安を抱えながら大人になっていく子供たちの自立支援を行うためには、居場所や子供への直接支援だけではなく、親子関係を支援していくことも大切です。やまりすの居場所では、児童福祉の専門的見地に基づく親子関係支援のプランに基づき、丁寧に、子供とその保護者の支援を行っています。

④児童又はその保護者の就労支援



安定した職業生活に向けてサポート

「キャリアサポート」は、大分県中津市で子供たちが就職し職業生活を安定して送っていけるようにするための専門的な就労支援を行っています。

市内から就労等の準備支援を行う専門機関に通うには一定程度の交通費がかかり、公共交通機関で通うにも片道数千円かかってしまいます。経済的に困窮している世帯の子供は既存の専門機関で就労トレーニングを受けることができません。また、そうした世帯の子供たちの中には不登校の子供もおり、学校で行われているキャリア教育を受けることができていない子供もいます。

「キャリアサポート」は、交通費をかけて専門機関に通うことのできない子供たちも就労トレーニングを受けることができるよう、自らが地元・中津市内で専門的な就労支援事業を行うこととしました。

また、地元にはキャリアコンサルタント等の専門資格を有する就労支援人材に乏しいことから、今後、地元こうした子供たちの就労支援を行う人材を増やしていくことを目指し、困り事を抱えた子供・若者の支援者を対象に、キャリアコンサルタント等の専門資格を取得するための専門講座の受講と専門資格取得試験の受検支援を行うこととしました。

2020年度は、子供たちを対象とした「ステップアップセミナー」で、挨拶、身だしなみ、表情、姿勢といったビジネスマナーの基本を学ぶ講座を行ったほか、「職業人講話」として第一線で活躍する企業の方に講演いただき、仕事をするとはどういうことかについて直接お話を伺いました。また、仕事がどのように行われているのかを直接体感する職業見学も行いました。年間を通じたセミナーの開催回数は計22回にのぼり、受講した子供たちは延べ186名。セミナーを受講した子供たちのうち4名は、無事、2021年春、職業を得て社会人となっています。

また、子供・若者の支援を行う2名の方を対象にキャリアコンサルタントとSNSカウンセラーの資格取得のための育成を行い、受験生2名とも、筆記・論述・面接と複数の試験を乗り越え、合格を果たしました。

⑤ 児童養護施設等の退所者等や里親又は特別養子縁組の斡旋



施設を退所し一人暮らしを始めた子供たちに寄り添って

児童虐待が増加の一途をたどる昨今、親元で暮らせない子供たちは非常に多く存在します。親元を離れた子供たちは児童養護施設や里親のもとで過ごしますが、18歳になると自立しなければなりません。一人暮らしをする者もいれば、社員寮に入る者もいます。自立援助ホーム等の施設に再入所する者もいますが、そのほとんどはアフターフォローのない状態です。頼れる親や後ろ盾のない子供たちは、ひとたびトラブルが発生すると、相談する相手もないため一人で抱え込み、解決策を見出せないまま自暴自棄に陥ってしまうこともあります。

「はこぶね」では、子供たちが施設に入所している間から子供たちと話をすることのできる関係を作り、施設を退所した後、まるで実家の親が一人暮らしの子供の生活を見守るように、困った時に相談に乗り、寄り添いながら自立を助けていく活動をしています。こうした活動はアフターケアと呼ばれており、日々の暮らしで生じる困り事を解決するための生活相談や、料理の仕方の習得、買い物するときの食品の選び方、働いて得たお金の金銭管理など、自立に向けて必要な様々なサポートを行っています。時には、施設を退所した後、一旦就職するものの仕事が長続きせず、社員寮を出なければならなくなる

こともあり、緊急に引っ越しの手伝いや転居手続きのサポートをすることもあります。2020年度を通してみると、子供たち一人ひとりと向き合って面談したことは計64回、病院受診や行政手続きへの同行、引っ越しの手伝いなどは計9回となりました。

また、「はこぶね」では毎月、子供たちの誕生日会を開きます。子供たちそれぞれが大事な存在なのだということを伝え、本人に実感を持ってもらうためです。2020年度も、子供たちの好みに合わせてケーキを手作りし、子供たちの誕生日を祝いました。

ケーキを丸ごと食べる子もいれば、分けて食べる子もいます。少し前まで施設の管理下で生活していた子供たち。自由に過ごす喜びを味わいつつ、一人で暮らしていく力を身に付けていてもらいたいことを願いながら、「はこぶね」は、子供たちの自立に向けた成長に寄り添っています。

⑥ 貧困の連鎖の解消



専門家を交えた定期的な子供たちのケア

「ワタママスマイル」は、宮城県石巻市の渡波（わたのは）地区で毎週土曜日、子ども食堂を開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響で食堂の開催が困難となった時期には、気になる子供の家庭に無料で弁当を届ける宅食を行いました。2020年度中は、親が失業、休職した子供が急増する中、ほぼ毎日子供たちのもとへ昼食時に弁当を届けました。また、経済的な理由で塾に通えない子供や不登校の子供たちに対しては、個別学習支援を週3回、英語学習を週2回程度行っています。

子ども食堂に来る子供たちの中には、ネグレクトやDV、不登校など、家庭や学校生活に課題を抱えていると思われる子供もいます。こうした子供たちについては、ボランティアの支援者が地域内で見守りを行ったり、ケアワーカー等の専門家による月1回の定期面談を行い、個々の子供たちの状況を定期的にフォローアップしています。

こうした気になる子供たちの生活状況を定期的に専門家の知見を交えながらフォローアップしていく過程では、必要が生じれば行政の支援窓口につなぐこともあります。学校とも連携し、対象児童生徒の通う小中学校との間で、スクールソーシャルワーカーと月1回、定期的に個々の子供の状況に関する情報交換を行うとともに、

ケア会議を開き、子供たちとその家庭をどのように支えていくかについて相談を重ねています。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響で対面接触を極力避ける必要が生じました。このため、一定期間、メールやSNSを活用した臨時相談窓口を設けて、生活困窮や虐待防止のための相談支援を行うこととなりました。

貧困の連鎖を防ぐためには、定期的に個々の子供たちのフォローアップを行うことが欠かせません。こうした定期ケアにおいては、ケアワーカーやスクールソーシャルワーカーによる専門的な知見と、地域の見守りの目の両方が必要です。「ワタママスマイル」は、地域の人と人とのつながりを作ることを通して、子供たちへのきめ細やかなケアを続けています。

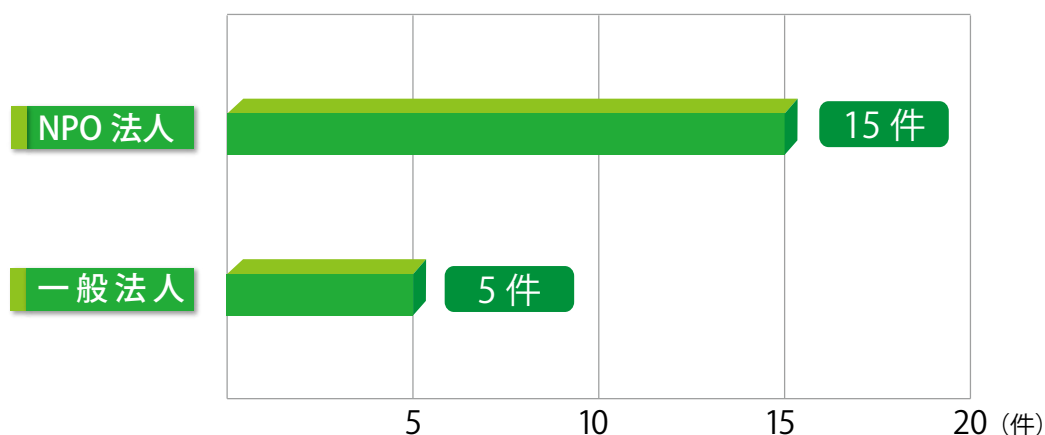
2020年度支援:新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業実績報告

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業により、全国の20団体に対し、支援を行いました。

■ 支援件数 計 20 件

様々な学びを支援する事業	7 件
居場所の提供・相談支援を行う事業	1 件
衣食住など生活の支援を行う事業	9 件
児童又はその保護者の就労を支援する事業	1 件
児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業	1 件
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業	1 件

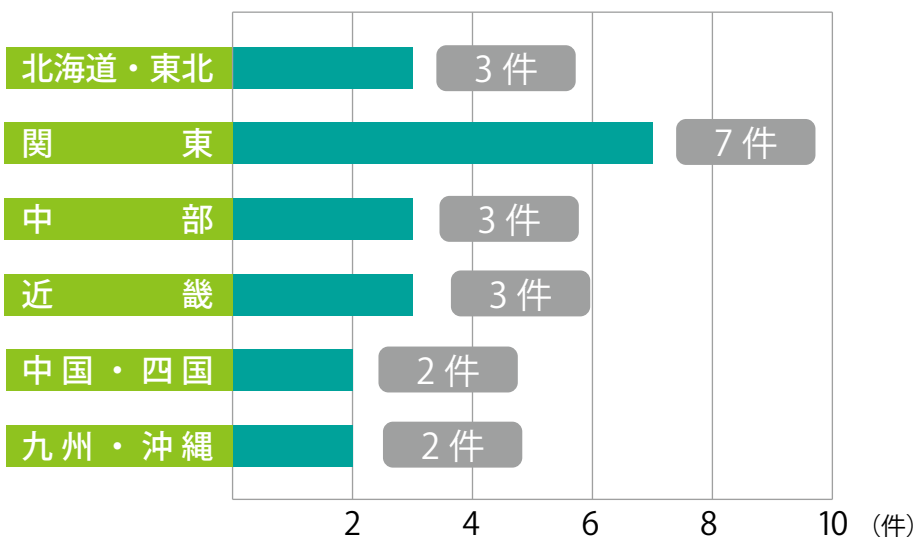
■ 支援先団体の法人区分別内訳



■ 支援した
子ども、
親子の人数

計
23,928名

■ 支援先団体の所在地域別内訳



安心して学習できる環境づくり



2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多くの小中学校が休校となり、それぞれの学校ごとに休校中の授業の対応にばらつきが生まれました。そのため、子供たちからは「新学期からの教科書の内容がわからない」、「受験を控えていて不安だ」という声が挙がりました。

そこで、「**維新隊ユネスコクラブ**」では、これまで行ってきた対面での学習支援事業のノウハウを活かし、各家庭からインターネットで参加できる学生ボランティア講師によるオンライン学習指導を週1回約1.5時間行うとともに、通信環境がなかったり子供が家で使える通信端末がないという子供や、自分の部屋がないために落ち着いて勉強できない子供のために、新たにそうした子供たちのための自習室を設け、自習室から授業に参加できるように学習支援の体制を整えました。

この緊急支援でコロナ禍の学習を支えた子供たちは、小学4年生から中学3年生までの計72名。

オンライン授業に参加できるようにするために新設した自習室でしたが、中には自宅に自室がないため家ではベランダに机を出して勉強して高校受験の勉強に勤しむ中学生もおり、自習室の新設によって、家庭の経済的な

事情で具体的に学習に支障が生じている子供をサポートすることができました。

また、自習室で授業を受けた後には、パンやカップラーメンなどの食事もとることができるようになりました。コロナ禍以前から食事もとることのできる個別指導の無料塾として活動してきましたが、コロナ禍の影響でオンライン指導を取り入れた後も、オンラインであっても子供一人ひとりに目をかけ、ぬくもり感のあるアットホームな塾であることを大切に、身近な人に見守られている実感を得られるようにしています。

子供たちの食と居場所を守る



新型コロナウイルス感染症の影響で親の収入が減ったり家で過ごす時間が増えて生活費が増加したことにより、特に元々厳しい経済状況であったひとり親世帯の子供たちに大きな影響が出ています。

「秋田たすけあいネットあゆむ」では、感染症対策のため、従来行ってきた親子食堂を一定期間取りやめ、2020年2月から緊急食料支援を行うこととしました。また、長引く休校で子供たちの学業に遅れがみられたほか、不規則な生活で健全な日常を取り戻すのに時間がかかりそうな状態の子供が見受けられるようになりました。夜中に子供たちからSOSのメールが届くことも増えました。午前1時に高校生から「おなかですいて眠れません。誰も助けてくれない。助けてください。」というメールが団体に届いたこともあります。

そこで、「秋田たすけあいネットあゆむ」は、従来から行ってきた親子食堂を開催できるようになるまでの間、月に2回、金曜日の夕方に、ひとり親世帯を対象にお弁当と食品を無償配布するフードパントリーを行うこととしました。利用した世帯は月に60世帯以上、計1,100食。配布した食品は1,362キログラムに上ります。お弁当と食品の受渡しは、支援する親子と直接話ができる貴重な時間になっています。食品を取りに来られる方の中には、「コロナで学校が休みになり、子供を預けるとこ

ろがなく会社を休んだら、クビになった。この先どうしようかと思っています」、「飲食店で働いていて勤務時間を減らされ、生活がとても苦しい」等、苦しい現状を涙ながらに訴える方もおり、コロナ禍での窮状が垣間見えました。

また、毎週平日の日中には、子供の居場所として無償のフリースクールを週4回開所して親子双方の負担軽減を図り、夜間には、受験を控え塾に通えない状態の中学3年生を対象に無償の学習塾を開催する取組も始めました。フリースクールに通う子供の9割がひとり親世帯の子供です。利用料を無償にすることで多くの子供たちが通うことができ、2021年春には、コロナ禍で不登校になっていた3名の子供が学校に登校することができるようになりました。そして、受験生は全員がそれぞれの志望校に合格し、2021年春から高校、大学へと進学することができました。

コロナ禍の生活を支える



新型コロナウイルス感染症対策による学校の一斉休校などの影響を受け、子供のいる困窮世帯では、休校期間中、学校給食がなくなり在宅時間が増えた分、食料支援のニーズが高まりました。

従来から長野県内で食品の寄付を募り無償で困窮世帯に配送する活動を行ってきた「フードバンク信州」は、コロナ禍によりこれまでの食品支援ニーズが約2倍の量にまで高まったことを踏まえ、学校給食がなくなる夏休みと冬休みに限定して行ってきた小学生のいる困窮世帯への食品の無償配送を、長期休みに限定せず、2020年7月から2021年2月までの8か月間、継続的に支援を行うこととしました。

今回のプロジェクトでは、これまで公的支援につながっていない世帯への利用拡大を意識して、ウェブサイトを利用希望者の募集を広く告知したところ、長野県内のほぼ全域から申込みがあり、延べ1,076世帯から申込みがありました。「フードバンク信州」では、申込みのあった全ての世帯に食品の無償配送を行うこととし、家族総数にして4,619名もの方に支援を行うこととなりました。

プロジェクトの成果は、支援が必要な方に食品を届

けることができたわけではありません。食品配送の利用希望者が多かった市町村では独自に支援活動を始める社会福祉協議会等が出てきたり、フードバンク活動に関心を持って連絡をしてくれる市町村も出てきます。これまで見えてこなかった貧困がコロナ禍によって顕在化してきたことで、企業や市民からの食品の寄贈も増えています。県内の幅広い層の方の理解を得られ、関心を持っていただいたことは、フードバンク活動の活動の広がりも多くの方に参加いただくきっかけづくりにもなりました。

子供たちと家庭の変化

子供の未来応援基金による支援を受けた支援団体の活動により、子供たちやそのご家庭に様々な変化が現れています。

■ 学習支援

「勉強が分かる」、「勉強の楽しさを教えてくれた」(中学3年生)

「自分に期待してくれる」(中学3年生)

「失敗した時に励ましてくれる」(中学3年生)

「わからない問題をわかるまで教えてくれる」(小学生、中学生)

「素直に「わからない」と言える。落ち着いてちゃんと勉強できる環境がある。」(小学6年生)

「安心して質問できる」(小学4～6年生、中学1～3年生)

「学校の授業についていけず、塾にも通えないので、いつもここで勉強しています。学校の授業と違って、ここでは分からないところを丁寧に教えてくれます。」(中学3年生)

■ 衣食住などの生活支援

(子ども食堂に通う親子の声)

「自宅よりもおいしいものが食べられる」(小学3年生)

「自宅ではほとんど一人かお母さんの仕事が休みの日だけ二人でご飯を食べています。でも、ここに来るとお友達に会えるし、おいしいご飯も食べられるので、とってもうれしいです。」(小学6年生)

「食べたことのない野菜だったけどおいしかった」(小学生、高校生)

「元夫から養育費もほとんどもらえず生活は困窮していたところ、新型コロナウイルスの影響により勤務時間が半減し、元々苦しかった生活がさらに厳しくなり、子供たちに対して満足な食事すら出せない状況となりました。子供が多いため、子ども食堂へのお誘いは本当にありがたかったです。」(小学5年生・2年生・年長の3児の母)

(食品の無償提供を受けた親子の声)

「仕事が夜遅くまであり、料理を作る時間も買い物して帰る時間もないため、食品を届けていただき本当に助かった」(ひとり親家庭の母)

「朝から夜まで私が仕事でいないので、『家にあるものを食べて』ということになりがちですが、すぐにおいしく食べられるものが入っていて助かっています。気にかけてくれる人がいるという安心感が大きいです。」(ひとり親家庭の母)

「暗い気持ちの中で元気が出ました」(小学生がいる家庭の保護者)

「箱を開けた途端、子供たちがキャッと喜びました」(小学生がいる家庭の保護者)

「支援を受けることに恥ずかしさがありました子供に食べ物で我慢させられないと思いました。頑張ろうという勇気を持ってました。」(保護者)

「すきなおかしがいっぱいあってうれしかったです」(小学生)

「おかあさんといっしょにおやつが食べられてよかったです」(小学生)

■子供の居場所・相談支援

「居場所に来て、銭湯に入って大好きなお風呂に入れることがとっても楽しみ！」(小学3年生)

「居場所は大好き！ずーっと来たい！友達にもお話ししてるよ」(小学1年生)

「居場所のご飯は手作りでおいしい」(小学生、中学生)

「毎週、居場所に来るのが楽しみです。一緒に通う友達とも仲良くなり、スタッフや友達と勉強の後にトランプしたり絵を描いたりできて、毎日来たらいいのと思います。」(中学1年生、中学2年生)

「お母さんや家族との喧嘩が多くて困っています。居場所の人にゆっくり話を聞いてもらったり、休みの日に電話で相談できるのも嬉しいです。」(中学1年生)

「今日はお金がなくて何も食べていなかった。いつもお弁当を買って食べているから、こんなにたくさんの美味しい手作り料理を食べるのは何年ぶりだろう。」(ひとり暮らし・身寄りのない高校3年生)

「夜間仕事をしていて、子供への接し方がうまくいかず、すぐに衝突してしまい、うまく子供に向き合えない時があります。そんな時、居場所のスタッフの方に電話して相談したり、休日の相談ができると前向きになれます。」(中学2年生の母)

「子供が多く、宿題を見たりする余裕が全くありません。居場所へのお誘いは本当にありがたかったです。」(小学生の子供の母)

「学校の授業でのトラブルや家での宿題に困っていましたが、居場所のスタッフの方が学校に出向いてくれ、子供の特徴を伝えてもらえました。しっかりと子供の様子を見てくれていると安心しました。」(小学1年生の母)

「日本で暮らして、大変なことや辛いことたくさんあったけど、親切にしてもらえて幸せ。お弁当や食材、子供服など、家計が苦しいから本当に助かります。」(外国人のひとり親)

「病気を抱える自分たち(夫婦)に代わって、子供が居場所でイベントに参加したり、いろいろな体験をさせてもらえることに感謝しています」(疾患を抱える夫婦)

「家ではひとりで遊ぶことが多いから、居場所に来て大学生や高校生のお兄さんやお姉さんと遊べて楽しいようです」(ひとり親家庭の親)

「塾に行く余裕はないから、勉強を先生や学生さんに丁寧に教えてもらえて助かります。」(ひとり親家庭の親)

■就労支援

「今までずっと家で過ごしていたので、仕事をしている人の話を聞いたり職場見学で様々な仕事の具体的な話が聞けて視野が広がりました」(19歳)

「履歴書の書き方や面接指導をしていただき、おかげで合格することができました」(18歳)

「キャリア教育のセミナーで自分の興味のあること、できること、向いている職業について考えることができました」(20歳)

「セミナーで知り合った人たちとの交流が楽しかったです」(18歳)

■ 児童養護施設等退所者の支援

「高校卒業後の生活について、知っている人に相談できたから安心だった」（高校3年生）

「小さい時から知っている人に相談できるからいい」（18歳）

「いつでも相談できる人がいて安心」（19歳）

「仕事を辞めて寮を追い出された時、住まわしてもらって助かりました」（19歳）

支援に携わる方、ボランティアの方の声

子供の未来応援基金による支援を受けた支援団体の活動に携わっている方からは、こんな声が寄せられています。

「学生さんたちやボランティアさんたちとのかかわりが、人間関係の乏しい中で日々暮らしている社会性の乏しい子供たちにとって、素晴らしい刺激となり、小さなことからだに良い影響を与えていると感じます」（支援団体スタッフ）

「居場所活動を通じて、孤立しがちな世帯とのつながりを持つことが可能になっています。コロナ禍であってもできることをできるだけ行い、細くてもつながりを絶やさないことが大切だと考えています。」（支援団体スタッフ）

「企業からお弁当や地場産の素晴らしい食材のご寄付をいただきます。それにボランティアさんがお料理をしてくださり、子供たちは美味しい家庭料理を味わうことができます。そのような、温かい人と人とのつながりが、どんな完璧なシステムより、何より大切なんだと思います。」（支援団体スタッフ）

「地域の企業や市民の方々が自主的にそれぞれの思いで関わってくださっています。その姿から、豊かな市民性が醸成されていると感じます。そのような大人たちの姿は、必ず未来の子供たちの心に響いていくと思います。」（支援団体スタッフ）

「16歳のA君は中学2年生から不登校で高校に行かず引きこもっていました。初めはなかなかセミナーに参加できず別室でゲームばかりしていましたが、そのうち同世代の子供たちと仲良くなることができ、徐々にセミナーにも参加できるようになりました。今では人前でもしっかり自分の意見を言えるようになっています。」（支援団体スタッフ）

「私でも何かお役に立てることが少しでもあればと参加をしたけれど、素直で純粋な子供たちに私の方がいつも元気もらっています」（ボランティア）

「この活動を通じて、ハイリスクの世帯で暮らす子供たちが、私たちの身近に実際に存在していることを知りました」（学生ボランティア）

2020年度活動の成果

2020年4月1日から2021年3月31日にかけて、子供の未来応援基金により、
55,218名の子供・親子に支援を届けました。



15,374名

様々な学びの支援



20,590名

居場所の提供
相談支援



18,635名

衣食住など生活支援



26名

児童、保護者の
就労支援



593名

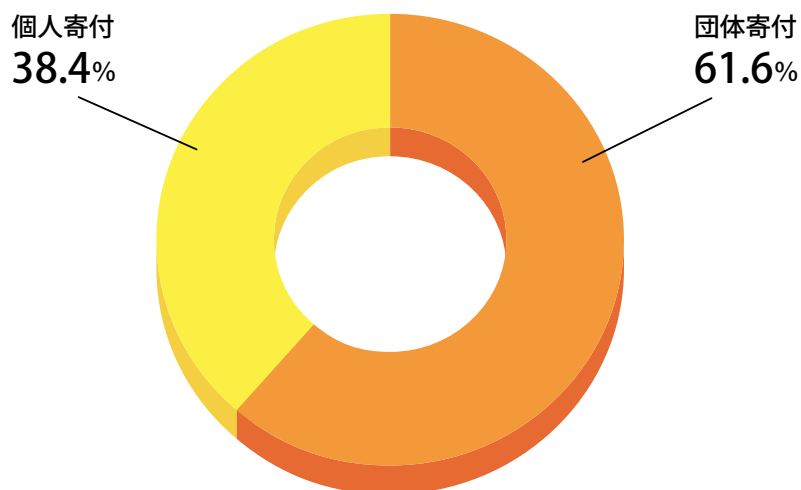
児童養護施設等の
退所者等の支援

※支援団体からの報告を単純集計したもの。

基金の財務状況（2020年度）

■寄付金収入（累計）

15億210万8449円（2020年度末時点）



寄付金収入（2020年度）

■寄付金支出

支援金	支出額（精算額）
第1回未来応援ネットワーク事業支援金	298,419,546円
第2回未来応援ネットワーク事業支援金	251,463,000円
第3回未来応援ネットワーク事業支援金	197,634,000円
第4回未来応援ネットワーク事業支援金 （新型コロナウイルス感染対策のための追加交付）	128,641,000円 (3,579,000円)
新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業支援金	53,277,000円

寄付金残高（2020年度末時点）

566,863,115円

（参考）第5回未来応援ネットワーク事業支援金

146,025,000円
(2021年4月交付)

ご支援いただいた企業・団体

2020 年度も、多くの企業・団体から子供の未来応援基金に対し、寄付金のご支援をいただきました。

株式会社カプコン
株式会社すかいらーくホールディングス
PayPay 株式会社
株式会社 NTT ドコモ
株式会社北海道銀行
日本証券業協会
日本電信電話株式会社
楽天グループ
サントリー食品インターナショナル株式会社
株式会社フォレスト・ワン
株式会社イオン・ファンタジー
三菱食品株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
株式会社大林組
日本軽金属株式会社
富士テレコム株式会社
明治ホールディングス株式会社
株式会社渡辺商行
JFE ホールディングス株式会社
東海テレビ放送株式会社
株式会社東京スター銀行
日油株式会社
一般財団法人アズビル山武財団
株式会社コーエーテクモホールディングス
株式会社サンセイランディック

ご支援いただいた企業・団体から一部をご紹介します。

このほかにも多くの企業や個人の皆様に御支援を頂いています。

詳しくはこちらをご参照ください。

▶ 子供の未来応援国民運動ホームページ <https://kodomohinkon.go.jp/support/fund/case01/>

第4回未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧

都道府県	団体名称	支援金額
北海道	Kacotam	2,812,000 円
	フードバンクイコロ さっぽろ	2,011,000 円
青森県	光星学院八戸学院大学 健康医療学部人間健康学科 佐藤千恵子ゼミナール	300,000 円
	子ども食堂すこやか プロジェクト	300,000 円
宮城県	おりざの家	1,000,000 円
	ワタママスマイル	1,000,000 円
福島県	つなぐ舎	1,000,000 円
	福島就労支援センター	300,000 円
茨城県	Peaceful Life	300,000 円
栃木県	フードバンクとちぎ	300,000 円
群馬県	ターサ・エデュケーション	2,666,000 円
	みんなのおうえん団	300,000 円
埼玉県	フードバンクネット 西埼玉	3,000,000 円
	川口子育て応援 フードパントリー幸栄	300,000 円
	ミナー	300,000 円

都道府県	団体名称	支援金額
千葉県	学習支援ソライロ	300,000 円
	とうかつ草の根フード バンク	300,000 円
	はこぶね	300,000 円
東京都	光と風と夢	1,000,000 円
	サンカクシャ	3,000,000 円
	全国こども食堂支援 センター・むすびえ	2,992,000 円
	全国子どもの貧困・教育 支援団体協議会	3,000,000 円
	豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク	2,730,000 円
	フードバンク TAMA	2,616,000 円
	あだち子ども支援ネット	300,000 円
	あったかキッチン水元	1,000,000 円
	アフォーラ	1,000,000 円
	きもの笑福	1,000,000 円
世界マザーサロン	世界マザーサロン	300,000 円
	日本福祉環境整備機構	1,000,000 円
	フードバンク調布	300,000 円

都道府県	団体名称	支援金額
神奈川県	在日外国人教育生活相談センター・信愛塾	3,000,000 円
	フェアスタートサポート	2,600,000 円
	あさみぞみんなのコミュニティ	1,000,000 円
	びーのびーの	1,000,000 円
	フードバンク横浜	1,000,000 円
	新潟県	フードバンクしばた
	イノベーション 7374	300,000 円
福井県	親子関係支援センターやまりす	1,000,000 円
長野県	おけまる食堂実行委員会	300,000 円
岐阜県	ぎふ学習支援ネットワーク	2,776,000 円
	教育・地域交流機構	2,986,000 円
	ふしみこども食堂	300,000 円
静岡県	ブラスマ委員会（はらぺこ食堂）	300,000 円
	「ふれあい子どもカレー食堂」の会	300,000 円
愛知県	「生」教育助産師グループ OHANA	1,810,000 円
三重県	みんなの居場所「こどもの隣」プロジェクト	1,000,000 円

都道府県	団体名称	支援金額
滋賀県	こどもソーシャルワークセンター	3,000,000 円
	滋賀県里親連合会	1,000,000 円
	Take-Liaison	1,000,000 円
京都府	京都わかくさねっと	2,927,000 円
	アガペー	300,000 円
大阪府	大阪市よさみ人権協会	3,000,000 円
	釜ヶ崎支援機構	2,302,000 円
	チェンジングライフ	3,000,000 円
	アサヒキャンプ	300,000 円
	木の実キッズダイナー 高井田	300,000 円
	高槻つばめ学習会	300,000 円
	日本国際育成支援機構	1,000,000 円
	ほしぞら & ふれあいハウス鳴滝	1,000,000 円
	HOME ステーション	1,000,000 円
	みらいこども財団	1,000,000 円
兵庫県	女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	3,000,000 円
	office ひと房の葡萄	1,000,000 円
	神戸市職員有志	1,000,000 円
	たからっ子食堂	300,000 円

都道府県	団体名称	支援金額
奈良県	あつあつごはんを食べる会	300,000 円
	大宮地区社会福祉協議会	1,000,000 円
	げんきスマイル OF ALL	1,000,000 円
	せいじゅん たすけあい こども食堂	300,000 円
和歌山県	子どもの生活支援 ネットワークこ・はうす	1,000,000 円
	さんくすすまいる TEAM わかやま	300,000 円
	はしっ子えがおサポート	1,000,000 円
島根県	フードバンクしまね あったか元気便	1,000,000 円
鳥取県	こども食堂 「ネバーランド」	2,869,000 円
広島県	学校教育開発研究所	3,000,000 円
	どりいむスイッチ	2,707,000 円
	マール村	300,000 円
徳島県	地域に子どもの居場所 を・グループわいわい	1,000,000 円
	四つ葉	1,000,000 円
愛媛県	Kodomo Saijo	1,000,000 円
高知県	ゆめ・スマイル	1,000,000 円

都道府県	団体名称	支援金額
福岡県	フードバンク福岡	3,000,000 円
	アイグループ	1,000,000 円
	コミュニティシンク タック北九州	1,000,000 円
	みんなの学び館	1,000,000 円
	わたしと僕の夢	300,000 円
長崎県	心澄	957,000 円
熊本県	逢桜の里	3,000,000 円
	いこいスペース ∞ こあ まるちゃん家	3,000,000 円
	こどもキッチン ブルービー	1,000,000 円
	OneField	1,000,000 円
大分県	まど	2,858,000 円
	一緒に歩こう会 居場 所サロンわかばハウス	1,000,000 円
	キャリアサポート	1,000,000 円
宮崎県	すず虫の会	2,587,000 円
鹿児島県	かごしまこども食堂・ 地域食堂ネットワーク	1,000,000 円

新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業支援団体一覧

都道府県	団体名称	支援金額
北海道	こども・コムステーション・いしかり	3,000,000 円
秋田県	秋田たすけあいネットあゆむ	3,000,000 円
福島県	寺子屋方丈舎	2,378,000 円
千葉県	子供プラス未来	1,454,000 円
東京都	維新隊ユネスコクラブ	1,869,000 円
	ウイズアイ	3,000,000 円
	キッズドア	2,798,000 円
	3 keys	3,000,000 円
	ハイコラ	3,000,000 円
	パルシック	2,516,000 円
長野県	IT サポート銀のかささぎ	2,900,000 円
	フードバンク信州	2,587,000 円
愛知県	アヴェニール	2,996,000 円
大阪府	輝	1,434,000 円
	CPAO	2,990,000 円
	タウンスペース WAKWAK	2,797,000 円
山口県	山口せわやきネットワーク	3,000,000 円
愛媛県	e ワーク愛媛	2,558,000 円
長崎県	ひとり親家庭福祉会ながさき	3,000,000 円
熊本県	熊本私学教育支援事業団	3,000,000 円



基金についてのお問合せ先

独立行政法人福祉医療機構
TEL 03-3438-0211

事業全般についてのお問合せ先

内閣府 子供の貧困対策推進室
TEL 03-6257-1438

SNSで最新の活動について情報を発信しています

子供の未来 応援



Facebook 子供の未来応援国民運動

YouTube 子供の未来応援国民運動

